

祝☆きずな新聞創刊10周年!

きずな

第20号

2021年12月

〈発行〉
泉南市人権啓発
推進協議会

バックナンバーは
こちらから



「きずな新聞」を創刊したのは、2011年8月。市民の方々に向けて、「じんけん」の大切さを伝えていくための啓発活動の一つとして新聞をつくってみてはどうかという意見から始まりました。一人でも多くの人の心が思いやりにあふれ、良い社会が出来れば良いという願いと、2011年3月の東日本大震災以降「絆」という言葉が広く使われるようになったことから、本紙のタイトルを「きずな」と決定し、年2回の発行を続けてきました。

この間、様々な啓発事業を行い、多くの参加者の皆様に「感想やご意見をいただきながら、紙面を作成してきました。皆様のご協力のおかげで、創刊10周年・第20号を発行することが出来ました。今後は皆様方のご支援とご協力をいただきながら、広く市民の方々に泉南市人権啓発推進協議会の活動を知っていただき、「じんけん」をより身近に感じることのできるような紙面づくりを行っていきたいと思います。こんな記事を掲載してほしい、ここが良かったというご意見も随時受付中ですので、お気軽に手に取っていただき、じっくりご覧になってもらえばと思います。



発行10周年を迎えるにあたって
編集委員の想い

◆「出会いのは宝」きずなを通して種々多様な出会いと経験を積むことができたことは、まさに人生の道しるべです。(A)

◆労働運動や地域活動で、人権活動にとりくんできました。定年後泉南市に住んで、人権啓発推進協議会役員の方に、ともに活動しようとして誘われ今までとは違った幅広く、より深い言動に触れることが多くなりました。(I)

◆「人権」のテーマは時代と共に変わり、1980年代は、部落差別問題を中心に「人権」について学習する「取組みが、2000年代は「あらゆる実は相手に嫌な思い(追い込んでいた事に気付かされる施策がとられ、近年で事は「LGBT」など個々の多様性を認め、自分らが何度かありました。

◆「きずな」発行のメンバーとして、第12号辺りから、携わらせて頂いております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

◆「きずな」新聞は読者の皆さんと一緒に時代を歩む新聞であり続けたいと思っております。

人権啓発講演会

令和2年10月27日、あいびあ泉南で「2020人権啓発講演会」を開催しました。今回は、講師に川口泰司さんをお招きし、「寝た子はネットで起こされる!?～ネット社会と部落差別の現実～」というテーマでお話をいただきました。

講演では、ネット上での差別の現状や、講師自身の差別体験、無知・無関心によって差別が拡散していく恐ろしさなどについてお話いただきました。「どんな情報もデマと知るまではその人にとって真実となる」という言葉が非常に印象的でした。

ギガスクールが始まり子どもとネットの距離が近くなっています。子ども達が「おかしい」と気付ける力を持てるよう、メディアリテラシーの大切さを教えていくこともこれからは重要になるのではないのでしょうか。

◆無関心であることがなげいけないのかよくわかりました。



参加者の声

◆ネット上における法規制の不十分さとともに、正しい知識を知らないことで加害者となってしまう現実を見て、非常に怖さを感じました。

◆差別は「そっとしておけば自然になくなる」という第三者の感覚がとても怖いと思うと同時に、普段から部落差別について考えることがなかった自分も差別する側の一人であったことに気づいて恥ずかしく思った。

人権週間 ～人権作品展～

例年、人権週間(12月4日～10日)にちなんで様々な事業を行ってききましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イオンイベントや市民の集いは中止し、人権作品展のみの実施となりました。

11月24日～11月29日、イオンモールりんくう泉南イオンホールにて、市内の保育園、認定こども園、幼稚園、小・中学校の子どもたちのポスター、習字、絵画、市民の方々にご応募いただいた「じんけん写真・標語」や、識字教室の皆さんの作品などを紹介した人権作品展を行いました。

「コロナの影響で外出するのをためらう人が多いのではないか」という不安もありましたが、期間中は約1,000名の方にご来場いただきました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大とともにコロナ差別が増加していることを受け、コロナ差別に関する啓発コーナーを設置しました。公民館と連携し、アマビエ展に出展された作品を掲示したり、コロナ禍で

皆が工夫していることなどを自由にふせんに書いて貼ってもらいました。

また、新たにりんくう翔南高校の生徒たちからも標語を出していただき、人権の輪がより広がりました。

会場では、展示されている絵の中から自分の絵を家族に紹介する子どもたちの姿がみられ、幅広い世代に人権の大切さを感じてもらえる機会となったのではないのでしょうか。



◆よい展覧会だと思えます。多くの人に来てほしいです。

◆普段人権について気にかけることがなかったから、考える良い機会になった。これから人権について深く考えていこうと思う。

◆最近世間を見回しても、コロナ、コロナ、自粛、自粛で楽しい話題が1つもありません。でも、このようにみんなが何かしらに頑張っているのを見ると、ほんわりとホッとします。

◆子どもたちが人権や命について向き合い、作品を作っているのにもいつも感動します。どれもすぐ上手です。また来年も楽しみにしています。



校区の集い

校区人権協では、小学校やPTAと連携し、地域の子どもから大人まで幅広い世代が人権に触れ合う機会を提供しています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で5,6年生や低学年を対象を限定して実施しました。(樽井小学校及び新家東小学校は中止となりました。)
参加者の声をご紹介します。

講演後に生徒たちと一緒に記念撮影☆



東小学校 (R2.9.11)
講師：奈佐誠司さん

困っている人がいたら、手を貸せる人になりたいと思いました。

家でも命の大切さを話したいです。

PTAの方と委員長も一緒に太鼓をドンドン☆



信達小学校 (R2.10.15)
講師：太鼓集団「魁」

「太鼓は生き物の命をい
ただいでできています。」



西信達小学校 (R2.10.9)
講師：太鼓集団「魁」

「死んだらあかん！」
親として伝えていきたい
です。

お話を聞いて、今後壁にぶ
ち当たった時に必ずいい方
向に向けると思います。

「しんどいときは助け
て！と声をあげる」



一丘小学校 (R2.10.26)
講師：太鼓集団「魁」

「ほんまに苦しい場合は
逃げていい」



雄信小学校 (R2.10.16)
講師：林家染太さん

仕事に誇りを持って生
きること、仕事で差別
をしないことの大切さ
を学びました。

「みんなちがってみんな
いい。違いを認めよう」



新家小学校 (R2.11.19)
講師：林家染太さん

子どものいじめに大
人としてどう関わっ
ていくか考えさせら
れる内容でした。

「私たちは命をいただいて
生かされている。だから命
を大切にしてほしい。」



砂川小学校 (R2.11.6)
講師：太鼓集団「魁」

生き物の大切さ、その尊い
命からできたものを感謝し
て使おうという思いは、子
どもたちにも伝わったと思
います。

ふだん人権の講座に参加することのできない保護者世代が人権について学ぶ機会となるよう、今後もPTA・学校・地域が連携し、人権意識の高揚を広める活動を続けていきます。

人権啓発講演会

令和3年10月25日、あいびあ泉南で「2021人権啓発講演会」を開催しました。今回は、講師に奥田均さんをお招きし、「人権の世間をつくろう」というテーマでお話していただきました。

部落差別という言葉は、黒人差別、ユダヤ人差別、女性差別、障害者差別等というように人をさしているのではない。部落出身者差別といわないのはなぜなのか。いわゆる同和地区居住者か、かつて居住していたか、両親がそうであるか、本籍地がそうなのか、あるいは、職業なのか、というように。人によって判断の基準が違うし、線引き出来ない。江戸時代の自分の身分をはっきり知っている人はいないし、ましてや、他人のことなどわかるはずもない。明治以降、身分制度が崩れ、親の身分が引き継がれることも、身分違いの結婚御法度が解かれ、子孫まで同じ身分のままの人は多分ない。本籍地も変更できるし、代々が同じ所に居住していることはほとんど無い。



そんなことから、土地との関りを持つ人に対する差別というものが、如何に曖昧で馬鹿馬鹿しいものであるかと言える。人生のパートナーを決める時、人物の良さは認めていても、出身地を問題視すること、企業においても、あえて優秀な人材を採用せずに逃してしまふことになるのは何故か、人の価値は地面で決められるのだろうか、そんな筈はない。

発想を変えてみよう！そんなことを笑い飛ばせるような世間に、身元よりも人物を大切にしている。間に、差別に対して「何を今更」と言える空気を作ろう。例えば、禁煙の世間は広がってきている。ほんの少し前までは、職場や公共施設にも煙草の匂いと煙が立ち込め、灰皿が常に置かれていた状態から世間が変化したように、部落差別も変えていくことができると思う。部落差別解消法が5年前に制定されたが、そのことに大きな意義がある。学校にも社会にも教育が大切だ。「人権の世間」を作ろう！世の中は動きだしている。

奥田均さんの講演を聴いて「世界中で最も解決が早いだろうと言われる人権問題は、部落差別」と、いつか聞いた話を思い出した。

(砂川校区)

田中 千賀子

校区の集い

毎年、各小学校で実施している校区の集い。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、昨年度に引き続き、対象学年を限定したり、地域の方の参加を制限したりするなどして実施しました。

「手話エンターテイメント発信団」の講演では、手話クイズや手話を使った体験しながら手話を学びました。

講師からの「手話をする際には表情も大切にしてほしい」との言葉に、子ども達にはマスク越しでもわかるほどの笑顔を見せていました。

また、太鼓集団「魁」による講演では、太鼓の力強い演奏と「しんどいときには、助けてと声をあげろ！」という力強い言葉にうなづく生徒の姿も見られました。

泉南市人権啓発推進協議会では、これからも子ども達に新たな出会いと学びの場を提供できるように取り組んでいきます。

手話を覚えてみよう！

<こんにちは>

人差し指と中指をたてて、眉間に当てます。次に、両手の人差し指を向い合わせて立て、お辞儀をするように折り曲げます。



<ありがとう>

右手の小指側で左手の甲を軽くたたいて上にあげます



知っていますか？ 泉南市子どもの権利に関する条例



泉南市では「子どもにやさしいまち」（チャイルドフレンドリーシティ）を実現していくために、「泉南市子どもの権利に関する条例」を2012年10月1日に制定しました。現在、10周年に向けた取り組みを行っています。

子どもにとって大切な 4 つの権利 ※子どもの権利条約より

みんながあんしんして
すごせていますか？

守られる権利
ひとりひとりの命はこの地球上で
ひとつしかない大切なものです。子ども
は命が大切にされ、平和で安全に
暮らすことができます。いじめや差別を
受けたり、心 やからだを傷つけられたり
することは、あってはならないこと
です。



すきなことに、ちやれん
じていますか？

育つ権利

子どもは遊んだり学んだりしながら育つ
ことができます。芸術 やスポーツにふれる
ことも、心 やからだを豊かにするためには
大切です。自分の決めた夢 や目標 に
向かってチャレンジしましょう。



こまったりときに、そうだれ
するひどかいますか？



生きる権利

子どもは食事をして、ぐっすり眠り、
おとなに見守られながら過ごすことが
できます。けがや病気を治療をうけるこ
とができます。困ったときはいつでも
相談をすることができます。

参加する権利

子どもは自分の思いや考えを
言ったり、社会に参加したりする
ことができます。自分の意見を
発表したり、他の人の意見につ
いて考えたりすることは大切な
ことです。



じぶんのおもいをつた
えていますか？

条例では、子どもの権利を大切に、子どもに優しいまちをつくることを約束しています。子どもが
幸せに暮らせるまちは、おとなも、お年寄りも幸せに暮らせるまちです。みんなで力をあわせて、よりよ
い泉南市をつくりましょう。

今後の予定

2021人権週間「市民の集い」

日時：12月5日（日）12時開場／13時開演

場所：泉南市立文化ホール

内容：第1部 神原文子さん（社会学者）のおはなし
第2部 映画「グリーンブック」の上映



皆様のご参加
お待ちしております！

人権作品展

日時：12月8日（水）～12日（日）

午前10時～午後8時（ただし、8日（水）は午後3時から）

場所：イオンモールりんくう泉南2階イオンホール



人権週間イオンイベント「みんなのカフェ」

日時：12月12日（日）午後2時～午後3時

場所：イオンモールりんくう泉南2階イオンホール

内容：Silky Sounds Duoによるコンサート



オリンピックにみる

多様性から

われました。

開催前は賛否両論あつたオリンピックですが、各国選手の活躍や、自国開催によるTV観戦に

びつたりの時間帯で、大いに盛り上がりました。

日本選手の活躍もめざましく、連日連夜のメダルラッシュ、前回の東京オリンピックでの獲得数を抜き、歴代最多となりました。

そんな中、私は実施された「競技」そのものに注目しました。

前回の東京オリンピックで柔道が正式種目になり、以来日本のお家芸と言われています。

今回、野球・ソフトボール、スケートボード、サーフィン、スポーツクライミング、空手など新しい競技が増え、従来からある競技でも、多様な試合形式、選手構成で行

①テニス、卓球やバドミントンなど、中央のネットを挟んで対戦する

ボールゲームでは、シングル、ダブルスの他に男女混合ダブルスが、

②1対1の勝ち抜き戦が当たり前だと思つていた柔道で、男女混合5人の団体戦が行われ、

③バスケットボールやソフトボールでは、様々なルーツを持つ選手が一つのチームを構成していました。

いずれも、人々の多様性や男女共同参画の世界的な流れに沿つたもので、スポーツ界のみならず、

日常のあらゆる場面で目にする光景です。

一方、私達の身近な共同社会である勤務先や地域団体はどうでしょう。

①会社の役員や管理職、

②議会議員、③地域の自治会や祭礼の実行委員会、

どの団体の構成をみても、

「男女共同参画は、まだまだ道半ば」と言うのが正直な感想です。

リモートを活用すれば勤務中の休憩時間を調整したり、家事の合間に、

1時間ほどの会議・寄りたいに参加、そこで様々な意見や提案を上げる事が出来るかもしれません

コロナ禍の中、多くの人が不自由やストレスを感じ、対応を模索している今、視点を変え、新しい発想で乗り越える良い機会だと思えます。

前回の東京オリンピック、私は4歳でしたが、旧26号線で聖火ランナーを見た記憶は鮮明に残っています。

人生100年時代、次に日本で開催されるオリンピックでどのような競技が行われるのか、今から楽しみです。

(西信達校区)

柿本 繁雄

つながり

vol.8



～日々思うこと～

人権啓発に携わる一人として、人権について調べてみました。

「人権とは、すべての人が生命と自由を確保し、それぞれ

の幸福を追求する権利、あるいは人間が人間らしく生きる権利で生まれながらにして持つ権利」である

り、だれにとつても身近で大切なもので、日常の思いやりの心によって守られているものだと思います。

しかし、小学生の頃は「土農工商」という言葉が教科書に掲載されていました。「土農工商」は江戸時代の基本的身分で、武士、

農民、職人、商人これらをまとめて四民と言われました。武士は支配階級として、苗字、帯刀などの特権を与えられました。そして、被支配階級のうち農民は年貢を納め、武士の生活を支えるために上位に設けられました。そして、四民に含まれない人はエタ、ヒニンと呼ばれていました。

明治時代になると「土農工商」は教科書からなくなりました。大きな進歩だと思えます。

初めて勤めた小学校では副読本として「にんげん」を使用して人間が平等であることを指導して

日々、出会う人に笑顔で挨拶することから始めてみようと思います。

(砂川校区 清水真治)

現在の名前に替えられたことも記憶に新しいです。古い校名が差別を思い起こすような名称であったためと思われま

す。私たちは、日々お互いの生活を支えるために上位に設けられました。そして、四民に含まれない人はエタ、ヒニンと呼ばれていました。

かき、これを実感することはなかなか難しいようです。空気があることを実感することが難しいように・・・。

編集後記

第20号ではありますが、コロナ禍で一連の行事・編集会議の中止を余儀なくされました。そのために、少し古い内容も含まれていること承知いたします。

日常に、時々戻つて感じるこの頃です。人と人のつながりのうれしさを大切さ改めて感じる「声」をたくさんお寄せください。

(企画委員会 編集委員)